

平成23年度栄小学校校内研修計画

1 主題

できてうれしい, わかってうれしい, とけてうれしい, 算数を愉しむ子
特別支援教育の視点を生かした授業づくり

2 主題設定の理由

一昨年より、基礎・基本の定着をめざすこと、算数に困り感のある児童を支援して、「わかった、できた」という達成感を味わせることに主眼を置き、取り組んできた。内容として、学習のルールを守る、学習環境を整えることから始めた。授業は、CRT学力検査やレディネステストの結果を指導に生かし、展開の工夫、ノート書き方の工夫をおこなった。補充学習（チャレンジタイム、算数教室）では、「算数が好きになった」「すこしわかった」など児童の感想が得られた。CRT学力検査の分析方法と研究授業については、一昨年度、大阪教育大学名誉教授で、CRT学力検査の監修者である北尾倫彦先生からご指導を受け、学力を中心に据えた、授業のあり方を学び、研究の道筋をつけていただいた。これらの結果から、21・22年度CRT学力検査には、学力向上の成果が見られつつある。

本校の児童は、もともと意欲的・積極的な面を持っており、素直でやさしい。学習に関しても「わかりたい」「できるようになりたい」と前向きな気持ちを持ち続けている。昨年度、学習規律の徹底、学習環境を整えるなど落ち着いた中での授業をすることで、児童の意識も変わってきた。児童の「わかりたい」「できるようになりたい」という気持ちに徐々に応えることができたと感じている。

今年度も、授業の展開の工夫をはじめ、学習支援ボランティアを効果的に利用した授業を実施する。単元全体を通して、わからなくて困っている子、見通しを持って不安がっている子、どうしようか戸惑う子に応じた指導の工夫などを行うことで、全ての子どもが算数が楽しい、わかってうれしい学習をめざしていく。

さらに、新学習指導要領の重点である「言語活動の充実」を算数科の中でどう実践していくかを検討し、児童相互の伝えあう活動・コミュニケーションを大切にした授業のあり方について研修を深めたい。

3 研究内容及び方法

「子どもたちの実態にあわせ、一人ひとりに応じた算数科の授業づくりをすれば、できる喜び、とける喜びを味わい、ともに算数を愉しむようになるだろう。」の仮説のもと、以下の手立てを実践する。

(1) 授業における学習規律を徹底し、授業効率を上げる。

わかる授業の創造には、落ち着いた学習環境や緊張した授業の雰囲気が必要な前提であり、そのために以下のような約束を全学級で徹底する。

- ①次時の学習準備とチャイム席を守ること
- ②聞き方、話し方のルールの定着を図ること
- ③机に向かう正しい姿勢を身につけること
- ④鉛筆の正しい持ち方ができること
- ⑤授業時の机の上の整頓ができること（教科書、ノート、筆箱の机上での配置）

(2) 基礎・基本の定着をめざした具体的な取り組みを実施し、学力の向上を図る。

算数科は系統性のはっきりした教科であり、前年度の内容や前単元の内容の理解が大変重要になる。既習の内容が理解されていないために、わからない、おもしろくないと苦手意識を持ってしまう場合も多い。そこで以下の取り組みを通して基礎・基本の定着を図る。

- ①朝の学習時間、チャレンジタイム、家庭学習などを利用した反復練習
- ②学習支援ボランティアを効果的に利用した授業の実施
- ③長期休業中の補充学習
- ④理解を深めるためのノートの効果的な使い方の指導

(3) 毎日の授業の中で、一人ひとりの実態を意識した授業創りと支援の方法を模索しながら、個に応じた指導を行う。

- ①授業のねらいを絞り、明確にした授業の実施
 - ア. 全学級公開授業
 - イ. 学習支援ボランティアを活用した授業
 - ウ. 百玉そろばん・フラッシュカード・電子黒板などを利用した効果的な授業
- ②全学年研究授業の実施（1，2学期）
 - ア. 児童の実態に応じたわかりやすく意欲を高める授業
 - イ. 学習支援を必要とする児童への配慮を意識した授業
 - ウ. 少人数学級の利点を生かした授業
 - エ. 児童相互のコミュニケーションを大切にした授業
- ③特別支援教育の視点から、コーディネーターと連携をとり、学習に困り感のある児童の把握と支援の検討と共通理解（年間を通して）
 - ア. 単元全体を通して、個に応じた指導の工夫
 - イ. チャレンジタイムや算数教室での指導工夫
 - ウ. 学習支援ボランティアの活用の工夫

(4) 効果的な学習のさせ方の実践交流会（夏休み）

- ①書く能力を育てるノート指導
- ②効果的な家庭学習のあり方
- ③電子黒板等を使った授業

(5) 児童の生活習慣を把握し、生活習慣の改善を図る。

- ①「早寝、早起き、楽しい朝ご飯」運動、栄小独自のプラス1の朝ご飯と「ノートレビデー」運動に取り組み、正しい生活習慣を身につける
- ②学習習慣づくりと学力向上のために家庭学習の定着を図る
- (6) QUを活用した学級づくり、仲間づくり

4. 年間研修計画

1 学期

月	日	曜日	班研	職員会議	教科校内研修
4 月	4	月			第1回研修委員会 ・研修部組織の決定 ・主題決定 ・今年度の重点項目決定 ・年間計画の決定 ○5日職員会議で報告・提案
	13	水			第1回学年部研修 ・授業年間計画 ・低、中、高学年のめあて ・ボランティアの支援について ・チャレンジタイムの児童の分け方 ○20日 職員会議で報告・提案・決定
	20	水		○	新学習指導要領の学級懇談会(22日)説明について
	27	水			全体研修会 ・今年度の研修について ・基礎基本の定着について
5 月	4	水			祝日(みどりの日)
	11	水	○		第1回班研
	18	水			
	25	水		○	
	各学級公開授業 略案用意				
6 月	1	水			(2)年研究授業
	8	水	○		第2回班研
	15	水			
	22	水			(6)年研究授業
	29	水		○	

各学級公開授業 略案用意（1～2学期）					
7 月	6	水			
	13	水		○	
	20	水			
	算数教室 22・25・26・27・28 9:00～10:00				
8 月	3	水			夏季研修会（8月 日）
	10	水	○		第3回班研
	24	水	教育研究集会		
	31	水			

2学期

月	日	曜日	班研	職員会議	教科校内研修
9 月	7	水			学期始め
	14	水			学年部研修 ・2学期の指導
	21	水		○	職員会議
	28	水			学年部研修
10 月	5	水			（5）年研究授業 全体研修会
	12	水	○		第4回班研
	19	水			（1）年研究授業 全体研修会
	26	水		○	
11 月	2	水			（3）年研究授業 全体研修会
	9	水			天栄中発表会（鈴教研委託）
	16	水	○		第5回班研
	23	水			祝日（勤労感謝の日）
	30	水			（4）年研究授業 全体研修会
12 月	7	水	○		第6回班研
	14	水		○	
	21	水			

	28	水			冬期休業
--	----	---	--	--	------

3学期

月	日	曜日	班研	職員会議	教科校内研修
1月	4	水			冬期休業
	11	水	○		第7回班研
	18	水		○	
	25	水			学年部研修会 ・研修のまとめ
	まとめたことを中心に、冊子作りをする。				
2月	1	水			全体研修会 ・各学年の考察 ・今年度の成果と課題
	8	水			
	15	水			
	22	水		○	
	29	水			
3月	7	水		○	
	14	水			
	21	水		○	全体研修会（職員会議） 来年度組織，次年度年間計画
	28	水			学年末休業日
	30	水			

チャレンジタイム（月曜日6限目）

1学期 5/16 5/23 6/20 6/27
 2学期 10/24 10/31 11/21 11/28
 3学期 1/30 2/20 2/27